

第4回 クラスの小さな仲間たち

昨年度の1月ごろから大量のカブトムシの幼虫をあずかり育てていたのですが、Q休みに入ってからカブトムシが一斉に羽化しはじめました。

なんとなくカブトムシやクワガタムシは、「夏の生き物」というイメージが定着しているため、夏休みに捕りに行く子が多いのですが、実はクワガタは5月上旬頃から、カブトムシは6月下旬ごろから捕ることができるのです。

第2Qから学年で飼育するので、カブクワが好きな子には、ぜひたくさん触れ合っしてほしいです。



～理科につながるよ、生き物の知識～

昆虫は大きく「完全変態」「不完全変態」の2種類に分けることができます。

完全変態・・・幼虫→蛹→成虫と変化する。カブトムシ、ハチ、チョウなど

不完全変態・・・幼虫→成虫と変化する。バッタ、カマキリ、ヤゴ、セミなど

※原始的な「無変態昆虫」という種類の昆虫もいます

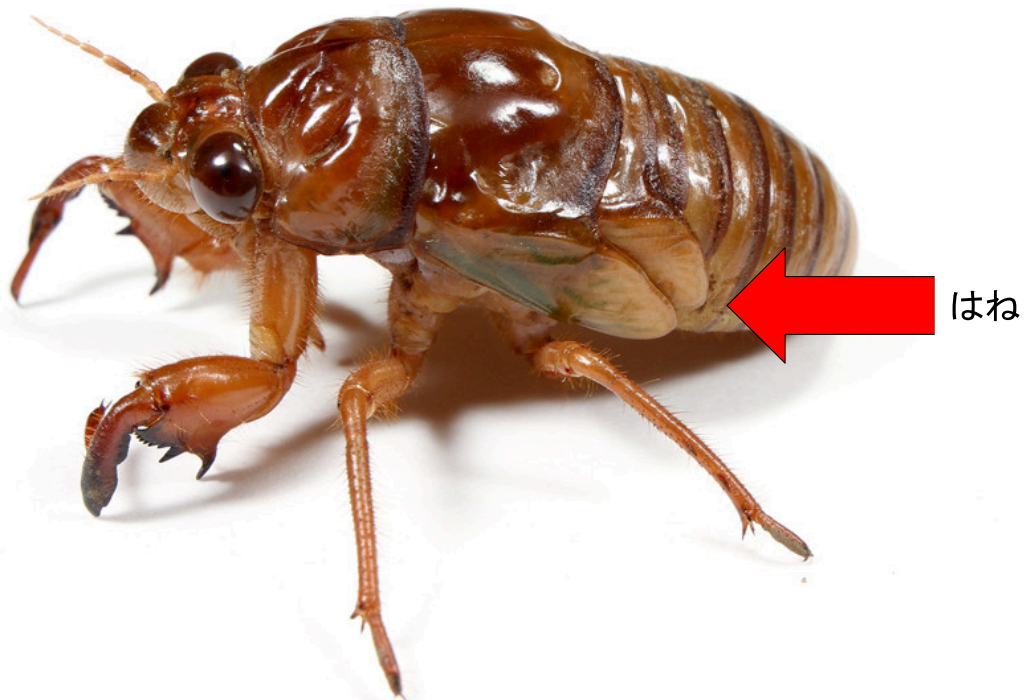
2つを分けるポイントは、「蛹になるかどうか」です。蛹とは外骨格から内臓まで、体の構造を大きく変える時期のことです。蛹の時期がある完全変態の昆虫は幼虫と成虫の姿が全く違うという特徴があります。葉を食べるイモムシから、花の蜜を吸うチョウへ変化するの、完全変態昆虫の非常に分かりやすい例です。

それぞれの変化にも名前があり、卵が**孵**ることを「**孵化**（ふか）」、**蛹**になることを「**蛹化**（ようか）」、成虫になって**羽**をもつことを「**羽化**（うか）」と言います。

不完全変態の昆虫のグループから完全変態の昆虫への進化が起こったそうですが、なぜこのような進化があったのでしょうか。完全変態のメリットは、子どもが未熟な状態で生まれるかわりに、大量の卵を生むことができることにあるそうです。子どもたちは未熟な状態から成長し、成虫となって羽をもち、新たな繁殖地を目指して羽ばたいていくのです。大量の卵は突然変異が起きやすいため、新天地での繁殖に有利に働きます。そうして完全変態の昆虫の進化が進んでいったのでしょうか。

では、セミやヤゴはどうでしょう。幼虫と成虫で姿が大きく変わるので、完全変態に思えるかもしれませんが、これらは不完全変態の昆虫です。実は幼虫をよく見ると、幼虫にも羽らしきものがあるのが分かります。

理科の知識として暗記しようとするのが難しいですが、「姿が大きくちがうかどうか」で幼虫と成虫を見比べると、楽しく生き物の学習をすることができます。



現存する不完全変態の昆虫たちは、環境に適応した優れた能力をもったエリートであると言えるかもしれません。

夏が近づき、虫捕りシーズンの本格的な到来です。子どもたちには、たくさん昆虫と触れ合い、豊かな体験を積み重ねてほしいです。